和歌山県立近代美術館
The Museum of Modern Art, Wakayama

Press Release 2024.8.23

きのくに文化月間 山青し 海青し 文化は輝く 令和6年11月1日(金)～11月30日(土)

知らないオドロキが色々色々
聖地リゾート!!!!! 和歌山

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録20周年記念特別展

仙境 南画の聖地、ここにあり

2024年10月5日(土)－11月24日(日)

＊11月5日(火)に一部作品の展示替えを行います。

① 富岡鉄斎《寿山福海図》1899年　清荒神清澄寺 鉄斎美術館

プレス向け解説会
2024年10月4日(金) 13時から

プレス関係者を対象に解説会を実施いたします。ぜひ、この機会に取材していただき、魅力を発信してくださいますようお願い申し上げます。

開会式・内覧会
2024年10月4日(金) 14時から

開会式に引き続き、内覧会を17時まで実施します。

お問い合わせ先

和歌山県立近代美術館
学芸担当：藤本真名美、奥村一郎
広報担当：村井

〒640-8137 和歌山県和歌山市吹上1-4-14
TEL ：073-436-8690　FAX ：073-436-1337
E-MAIL：press@momaw.jp　WEB ：https://www.momaw.jp

WEB

和歌山県立近代美術館
The Museum of Modern Art, Wakayama

仙境（せんきょう）　南画（なんが）の聖地、ここにあり

2024年10月5日（土）ー 11月24日（日）

和歌山から広がる南画の世界　3会場で約100点を紹介

南画とは、中国絵画に影響を受けて江戸時代に成立した、主に山水や花鳥を描く絵画です。中国の高官が余技としてたしなんだ文人画や、中国江南地方の温暖な風景を柔らかな筆づかいでとらえた南宗画を起源とするもので、江戸中期から人気を博したのち、明治期以降の美術界でも独自の展開をみせました。山と水に恵まれた和歌山は、しばしば中国古典に登場する「仙境」と重ねられ、江戸時代から文人たちの詩や絵画の主題となってきました。そして、近代においても、数多くの南画家が和歌山をめぐって作品を描いており、和歌山はいわば南画の「聖地」でした。

世界遺産登録20周年を記念する本展覧会は、和歌山県内の3会場で同時開催し、特に和歌山および京都、大阪を中心とする関西に注目して、近代日本において南画と向き合った画家による優品の数々を紹介します。和歌山県立近代美術館では、江戸期の和歌山、そして明治から戦前期までの関西を中心とする南画の展開をたどります。田辺市立美術館では、和歌山ゆかりの南画家を紹介し、熊野古道なかへち美術館（田辺市立美術館分館）では、和歌山の風景を描いた作品を展示します。この機会に、和歌山の豊かな自然を見つめ直すとともに、それらに通じる南画の清らかな世界観をぜひご覧ください。

第1部　近代の南画、関西にあり　会場：和歌山県立近代美術館

第1部では、江戸期の和歌山を代表する文人画家の紹介にはじまり、主に明治から戦中期までにおける、京都、大阪や和歌山を中心とする関西の近代南画の動向を探ります。

中国から文人画や南宗画がもたらされた江戸時代、和歌山は日本の文人画の祖ともいわれる祇園南海（ぎおんなんかい）をはじめ、桑山玉洲（くわやまぎょくしゅう）、野呂介石（のろかいせき）ら「紀州三大文人画家」を輩出しました。はじめに、主に田辺市立美術館の文人画コレクションから、彼らの代表作を紹介します。

南画は明治期に全国的な広がりをみせますが、固定化したスタイルなどがしばしば批判の的となりました。しかし、その頃の関西では京都府画学校（きょうとふがっこう）や浪華画学校（なにわがっこう）のほか、日本南画協会を通じて、南画家たちが盛んに活動しました。大正期に入ると、近代西洋絵画の影響を受けて「新南画」が流行し、関西でも京都市立絵画専門学校（きょうとしりつかいがせんもんがっこう）で学んだ若手を中心に盛り上がりを見せます。一方、伝統的な技法や精神を重んじながら、南画の革新を目指す団体として、京都で日本南画院が結成され、やがて全国にまで活動範囲を拡げていきました。

ここでは、学校教育や、美術団体、展覧会といった近代的な制度とも関連しながら、南画の世界に生じたダイナミズムを、関西を代表する作家たちの優品の数々によってご紹介します。

② 桑山玉洲《雪山唫客図》1798年　公益財団法人脇村奨学会（田辺市立美術館寄託）

第 2 部　近代の南画家、和歌山にあり　会場：田辺市立美術館

近代の南画界において、和歌山は多くの画家に影響を与え、独自の文化を育みました。第 2 部では、和歌山と深い関わりのある画家たちの多彩な作品を紹介します。

元武士や学者、商人などが、本業の傍ら余技として描いた明治期の南画は、江戸時代から続く文人的性格が認められます。和歌山は、こうした文人たちが理想とする「聖地」として位置付けられ、多くの画家が清遊しました。

大正期頃になると、和歌山でも伝統的な南画を継承しつつ、西洋絵画などをとり入れ、独自の表現を確立した画家たちが多くあらわれ、県内だけでなく中央の画壇でも活躍しました。

また、昭和期、特に戦中・戦後の混乱期には、現代における「南画」の在り方が模索され、そうした中で描かれた和歌山の風景作品には、この地に対する画家たちの深い洞察が感じられます。

第 3 部　南画の風景、和歌山にあり　会場：熊野古道なかへち美術館

江戸時代の文人画家の野呂介石は「山水画家は須(すべから)く南紀の山水を見よ。南紀を見ずして山水を語るなと喝破(かっぱ)した」と、大正から昭和期に活躍した南画家の矢野橋村(やのきょうそん)が伝えています。

江戸時代から日本の文人たちは中国の山水世界を求めて、和歌山をはじめ日本各地を旅し、現地での感興を詩や絵画に託しました。近代においても、文人たちが遊んだ「仙境」である和歌山にあこがれ、数多くの画家がこの地を訪れています。那智の雄大な滝や、吉野に連なる熊野の山々、熊野に臨む奇勝絶景の海岸などを目の当たりにした画家たちは、思い思いにその風景を描き残しました。

ここでは、南画を中心に、描かれた和歌山・熊野とそれに連なる海と山の風景を巡ります。

画像は全て第 1 部（和歌山県立近代美術館）で展示予定の作品です。

③福田静處《秋江独釣図》大正期
和歌山県立近代美術館

④ 矢野橋村《湖山幽邕》1915 年
大阪中之島美術館

開催概要

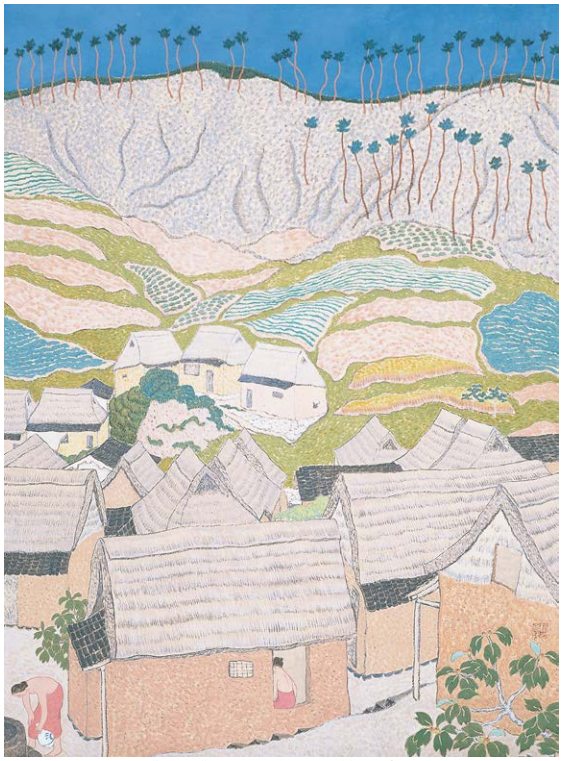
展覧会名	仙境　南画の聖地、ここにあり
会　　場	和歌山県立近代美術館　1 階展示室 A
会　　期	2024（令和 6）年 10 月 5 日（土）−11 月 24 日（日）
開館時間	9 時 30 分−17 時（入場は 16 時 30 分まで）
休 館 日	月曜日（祝休日の 10 月 14 日、11 月 4 日は開館） 10 月 15 日（火）、11 月 5 日（火）
観 覧 料	一般 800（640）円、大学生 500（400）円　（）内は 20 名以上の団体料金

＊高校生以下、65 歳以上、障害者、県内に在学中の外国人留学生は無料
＊10 月 6 日（日）は無料入館日
＊10 月 26 日（土）、11 月 23 日（土）は「紀陽文化財団の日」として大学生無料
＊11 月 22 日（金）は「和歌山県ふるさと誕生日」により無料

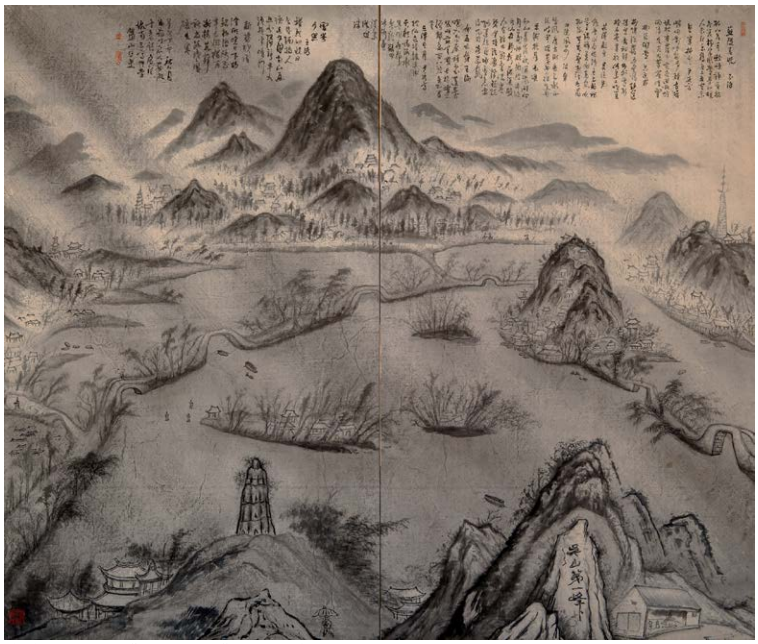
主な出品作品

掲載用画像については広報担当にお問合わせください。
文字のせ、トリミング等はご遠慮ください。

⑤ 池田桂仙《花卉菜蔬長巻》1916 年　伊山文庫



⑥ 森谷南人子《南郷》1913 年頃　笠岡市立竹喬美術館



⑦ 矢野鉄山《西湖雨中》1927 年　Kura Monzen Collection

⑧ 山田介堂《青緑山水江山春蘭図》1917 年
福井県立美術館

画像は全て第１部（和歌山県立近代美術館）で
展示予定の作品です。

⑨ 湯川三舟《中辺路所見》1933 年　尋聲寺

画像は全て第1部（和歌山県立近代美術館）で展示予定の作品です。

関連事業（和歌山県立近代美術館）

都合により内容を変更する場合があります。各イベントの詳細や参加申込等についてはウェブサイト等でお知らせいたします。

▶近代南画をめぐるトークイベント

日　時：11 月 4 日（月・休）14 時－16 時（予定）
場　所：和歌山県立近代美術館　2階ホール
講　師：橋爪節也（大阪大学名誉教授）、池田方彩（公益財団法人天門美術館館長）
定　員：80名程度　＊聴講無料、13時30分開場、先着順

▶ワークショップ「粘土で山水画をつくろう　わかやま編」

実施・運営：NPO和歌山芸術文化支援協会［wacss］
日　時：10 月 19 日（土）13 時－15 時（予定）
場　所：和歌山県立近代美術館
講　師：松平莉奈（画家）
対　象：小学生以上　＊小学校低学年は保護者の同伴が必要です。
定　員：15名程度　＊要事前申込。定員になり次第、締め切ります。
参加費：500円　＊保険および材料費として
＊9月10日（火）午前10時から電話（和歌山県立近代美術館：073-436-8690）及びウェブサイトの申込フォームにて予約の受付を開始します。

▶フロアレクチャー（担当学芸員による展示解説）

日　時：10 月 13 日（日）、11 月 10 日（日）、11 月 24 日（日）　各日 14 時－15 時
場　所：1 階展示室 A　＊要観覧券

▶スライドレクチャー（担当学芸員による展示解説）

日　時：10 月 26 日（土）　14 時－15 時 30 分
場　所：2 階ホール
定　員：80名程度　＊聴講無料、13時30分開場、先着順

▶こども美術館部（小学生を対象とした作品鑑賞会）

テーマ：なんかのスイッチ、ここにあり
日　時：10 月 26 日（土）、27 日（日）11 時から 1 時間程度　＊両日同内容
場　所：1 階展示室 A
人　数：6 名程度　＊要予約　10 月 12 日（土）9 時 30 分からウェブサイトにて受付を開始します。

関連事業（田辺市立美術館）

▶フロアレクチャー（担当学芸員による展示解説）
日　時：10月12日（土）、11月9日（土）　各日14時ー15時
場　所：展示室　＊要観覧券

関連事業（熊野古道なかへち美術館）

▶ワークショップ「粘土で山水画をつくろう　なかへち編」
実施・運営：NPO和歌山芸術文化支援協会［wacss］
日　時：10月20日（日）10時ー12時（予定）
場　所：熊野古道なかへち美術館
講　師：松平莉奈（画家）
対　象：小学生以上　＊小学校低学年は保護者の同伴が必要です。
定　員：10名程度　＊要事前申込。定員になり次第、締め切ります。
参加費：500円　＊保険および材料費として
＊9月10日（火）午前10時から電話（田辺市立美術館：0739-24-3770）
及び申込フォーム（https://logoform.jp/f/B8G2d）にて予約の受付を開始します。

▶フロアレクチャー（担当学芸員による展示解説）
日　時：10月14日（月・祝）、11月23日（土）　各日14時ー15時
場　所：展示室　＊要観覧券

同時期に開催の展覧会

▶和歌山県立近代美術館
特別展　月映　つきてるつちにつどいたるもの　10月5日（土）ー11月24日（日）
コレクション名品選　10月5日（土）ー12月22日（日）

▶田辺市立美術館
近世文人画の世界　10月5日（土）ー11月24日（日）

▶県立博物館（となり）の展覧会
世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録20周年記念特別展　**聖地巡礼 ― 熊野と高野 ―**
第Ⅲ期　人・道・祈り　―紀伊路・伊勢路・大辺路をゆく―　10月12日（土）ー11月24日（日）